

## ロータリー月例報告 2021年9月：「スウェーデンの授業形式について」

2021-22年度 地区補助金奨学生

スウェーデン・ヨーテボリ大学

和田 哉恵

新学期が始まって一か月が経ちました。1か月経って少しずつ慣れて来たというところですが、スウェーデンの大学は2学期制であっても一学期前半・後半に分かれているので、今受けている授業は11月頭に期末レポートを提出予定です。2学期制に慣れている私にとっては、「1か月」という節目はだんだん新しい環境にも慣れてきて心に余裕が出てきたり、疲れが出てきたり…という時期だったので、「え、来月にはもう期末!？」という感覚で、最近講義のリーディングに加え、期末レポートの内容も考えつつという慌ただしい日々を過ごしています。最近、気温がぐんと下がり、曇りの日々もだんだんと増え、それに加え急に強い雨に降る日が多かったりと、長く暗い冬の訪れをひしひしと感じています。クラスメートの薦めもあって、最近ビタミンDのサプリを摂り始めました。さて、前置きが長くなってしまいましたが、今月の月例報告は先月のスウェーデンの印象よりも、もう少し学校の内容中心でお話ししようかなと思います。

私が在籍している修士課程プログラム[Gendering Practices]は、生徒15人程度の少人数のプログラムです。授業は講義とセミナーの週2回で、生徒は授業のテキスト(毎回100ページ程度)を読んで講義を受講し、講義の数日後(木曜日講義、翌週の火曜日セミナーのことが多いです)に行われるセミナーの前に他の生徒と議論したい内容を大学のオンラインプラットフォームであるCanvas提出します。私がこれまで在籍していた北海道大学の研究室での「セミナー」は、テキストの内容に関するプレゼンテーションを行い、テキストの解釈度を問うものが多く感じました。ですが、現在受講している授業ではテキストの内容については講義でカバーされるので、セミナーはあくまでテキストの内容を理解したうえで、生徒が独自の考えを話し合うのがメイン。授業時間1時間45分のうち、前半1時間は3-4名のグループに分かれて行うディスカッションに使われます。



学期初めの天気の良い日にキャンパスでクラスメートとピクニックをしたときの様子

現在受講している授業は[Theories in Gender Studies]というもので、ジェンダー学を学ぶ

上で重要な理論を学んでいます。エジプトのイスラーム復興運動に参加する女性たち主観性について考察したテキストや、ジェンダー学の金字塔的存在であるジュディス・バトラー [*Gender Trouble*] など、毎回学ぶことの多いテキストで新たな観点を知ることが出来て楽しいです。ですが、その反面毎回リーディングをこなすので精一杯で、自分の考察が不完全なままセミナーに臨んでしまい、あまりディスカッションに貢献できず不甲斐ない思いをすることも多いです。現在受講している授業の期末が迫ってきていて、どこか焦っているような気持ちもありますが、留学を開始して 1 か月と挑戦はまだ始まったばかりなので、あまり気負いすぎず精一杯取り組んで、失敗も含め様々な経験をしようと思います！